

「カメラを持って、街に出よう！」

宮崎県立看護大学准教授・小笠原広美氏

(医学書院:精神看護 7月号に写真ワークショップに参加されたレポートが掲載されたので、一部抜粋して掲載します。)

写真家の小林順一氏(NPO 法人精神障がい者自立支援ネットワーク・宮崎もやいの会の代表理事)は、宮崎市街地で写真ワークショップを行っている。このワークショップのことを耳にしたとき、私はアートを使った当事者の方々の活動として、新しい分野でユニークな取り組みを始められたなと興味を持った。そして、「これは単なるレクリエーションとは違うものがあるのではないか！」と思い始めた。実習時にワークショップに参加した看護学生から、「写真を撮ってきた後のミーティングで当事者の方々の思いもかけぬ反応を目にして、驚いた」という話を聞いたからである。

私も実際に参加してみたところ、やはりこれは意味のある活動だ！と確信することができたので、全国の多くの人たちに紹介したい。

いつも参加しているメンバーは慣れたもので、病院を出発すると、さっそく撮影を始める。近



くの神社の境内にも入ってみる。普段は車で前を通りすぎるだけの神社であったが、カメラを持って、何を撮ろうかと考えながら中に入ると面白い装飾品や、なかなか立派な木も発見する。みんな時間を気にすることなく思い思いに散らばって、関心の向いたものにカメラを向けている。

仲間が撮っているのを見て近づき、そこに新たなものを見つけ撮りはじめる人もいる。長く参加している人は、初参加の人に「続けていると上達する

よ」と話しかけている。歩きながら、デイケアの看護スタッフに、夜間の睡眠のことや服薬について不安に思っていることを伝えているメンバーもいる。活動への参加者という同じ立場での、自然な会話の流れである。道端に見つけた女性の銅像とふざけて会話をしながらツーショットを撮ったり、大笑いしながらの散策であった。

ミーティングでは、自分のその日の作品で一番気に入った写真を決めてもらい、なぜそれを選んだのかを発表してもらう。メンバーから「何もわからない花に惹かれて、シャッターを押しました」などというコメントが語られる。ここでは、“



自分の選んだ1枚”が、とても大切にされる。写真を見ながら、メンバーは「なぜこれを撮ろうと思ったの?」「どうしてこれを選んだの?」と講師に問いかけられていく。「珍しい名前が目にとまったから」「木の上の広がり撮りたかった」「遠近法のやり方を真似して道を撮ってみた」など、それぞれの思いが語られる。1枚1枚、それぞれが思いを込めて撮影していたことがわかる。みんなからも「面白い」「いい写真だ」などと言われて「自分では失敗した

と思っていたんだけど・・・」とはにかむ人もいる。メンバーの様子を撮影した写真の中に、とてもいい表情をして写っているメンバーを見つけ、「いい顔してるね。いつもこういう顔をしていなき

やね」と声かけられる。初参加の人は、「散策するには体力がいるね」と明るい表情であった。

最後に、講師の小林氏の撮った作品も紹介される。同じものを撮っていても、やはり何かの違い、みんなからほっと感嘆の声が出る。印象に残る撮り方として、色のコントラスト、構図の取り方、どこをアップにして撮るかなど、撮影のポイントを聞きながら作品を見ていく。自分の撮った写真と比較しながら、ああ、もう少しこうすればいい作品になるかもしれない、などと学びがある。約1時間、和気あいあいとした中での鑑賞ミーティングが終了し、解散となった。



この活動が、精神を病む当事者の方々の回復にとって、どのような意味があるのだろうか。

- 1) 参加するかどうかを、その時に自分で決めることができる
- 2) スタッフも同じ立場で参加することにより、普段の悩みについても自然と相談できる。
- 3) 何を撮ろうか、と探しながら歩く。外界の自分の関心のあるものにしっかりと目を向けることができる。
- 4) 外の空気や日光に当たる、花の匂いや街の音を感じる、歩く、話す、笑うなど、五感を通して身体全体によい刺激となる
- 5) 経験者が、初心者にアドバイスするなど、教えたり教えられたりする体験ができる。
- 6) 自分の作品について、他の人の反応を得たり、自分で選んだり、思いを語るチャンスとなる。
- 7) 1人ひとりの個性が尊重されて、視点の向け方の面白さを認められる体験となる。
- 8) 他の人から、すごい、うまいなどの言葉をかけられることによって、自分自身の上達を実感する体験になる。
- 9) 講師から助言を受け、さらに講師の作品を見ることによって、次の目標を描くことができる。

このように、単にその時間を楽しむことができるというのではなく、精神の病を持つことによって弱くなってしまった自身を、回復に向けていくためにとてもいい刺激を、たくさん受けることができている活動だと考える。

実施機関

- ・若草病院デイケア(宮崎市):2008年~2013年、月2回
 - ・江南よしみ地域生活支援センター(宮崎市):2008年~2013年、月2回
 - ・あいクリニックデイケア(宮崎市):2008年~2013年、月1回
 - ・ピアメンタルさきき病院デイケア(宮崎市)2013年6月より実施
 - ・宮崎市保健所(難病患者・家族交流会):2011年~2013年、年1回
 - ・延岡市地域活動支援センターみなと:2013年1月
 - ・ドキュメンタリーフォトフェスティバルでの写真ワークショップ:2009~2013年、年1回
- ※実施に関しては、宮崎もやいの会のホームページに実施依頼書など掲載しています。

<焦らず、頑張らず、無理せず、のんびりと> NPO 法人 宮崎もやいの会

宮崎市瀬頭2丁目8-12 中村レジデンス3F TEL&FAX:0985-71-0036/090-3884-2574

<http://www1.bbiq.jp/m-moyai/index.html>

E-mail: m-moyai@kag.bbiq.jp

障がい者写真集団「えん」ブログ

<http://photoen.miyachan.cc/>